



# 琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	三絃説之由来
Author(s)	-
Citation	
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/6225">http://hdl.handle.net/20.500.12000/6225</a>
Rights	

二 陰説く由來

史に陰謀を云ふは神也天地人々わたり  
有りむし黄帝の神也乃始也乃國ハ  
天子也天子下は陰が方ハ地ハのり  
三ノ乃陰ハ人々此つとるなり大陰を君を以  
神陰ハ陰と正小陰ハ民と正男陰者濁り  
多し海魚と正此也人々君と正りてハ  
少しとある也君家と正か ねまよと正ん

君此所德也中流は前如谷川一  
君試いありしを民に及訓て美徳  
を及しく而徳執りて汝汝臣士は職に  
女法は音法一きくはとわら流と酒也  
之不流は別未在り一其事一若  
事と民百姓之道なり是故おん人  
人も法とすこのときたれ平とす  
陰陽の光おと水化生一右乃より

心学一人毎人生變て流の波影を是  
言功の理は且天地おんことわ九百九  
天道と人事ときわらるもの利女法  
言の音お通とりのこと一且天地万  
物我之親わみんこと一且天地  
何ともしこと一且我身汝身  
天地の如とすこと一且是法と得  
極功の極也一且心から禽獸と群衆



中ノ君翼て湖け 春をよもり 尤波海  
ありといふとらも 萬之聖人 清地おれ 清純  
事る初めらふか 一歌して けねか ともふさる  
只己が心と沈靜して 吾性枯淡 喜ひまの  
夢中ノ邪念と拂ひ 妖怪と逢はせし けりき  
あらせさる 憂慮せはし 夢と憂をさる  
山形一鳥と成相か ともふか 夢と逢はせし けりき  
天下と平ふさる 夢と憂をさる 又いふ 夢と憂をさる

此を以て先帝信君政事 只いふ 夢と憂をさる  
安徳の治めたり 又中信を信士とす 夢と憂をさる  
今己が徳とす ねれり 夢と憂をさる 國を亂の  
もとに 女信の國百姓を 夢と憂をさる ありき  
服を捨て 村側より 夢と憂をさる けり  
今この信を 夢と憂をさる 花一枝の 夢と憂をさる  
水谷に 夢と憂をさる 沈む 夢と憂をさる 夢と憂をさる  
破れ 夢と憂をさる 夢と憂をさる 夢と憂をさる

夢と憂をさる

